

山月記中島敦「山月記」テスト対策練習問題と過去問まとめ山月記

年	組	番	名前
---	---	---	----

問1 「山月記」の作者として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：芥川龍之介
- イ：中島敦
- ウ：夏目漱石
- エ：森鷗外

問2 「山月記」の原典として関係が深いものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：『今昔物語集』
- イ：『平家物語』
- ウ：唐代の伝奇小説『人虎伝』
- エ：『徒然草』

問3 「博学才穎」の読み方をひらがなで答えなさい。

問4 「狷介」の意味として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：自分の考えにこだわり、人と合わないこと
- イ：学問が広く、才能がすぐれていること
- ウ：人に対してとても親切であること
- エ：身分が低く、貧しいこと

問5 「自ら恃む」の意味として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：自分を強く責めること
- イ：他人に助けを求めること
- ウ：自分の立場をあきらめること
- エ：自分の才能や力を頼みにすること



問6 「賤吏」の読み方をひらがなで答えなさい。

問7 「怏々として楽しまず」の「怏々」の意味として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：とても満足しているようす
- イ：不満で楽しくないようす
- ウ：驚き恐れているようす
- エ：静かに喜んでいるようす

問8 「伝録」の意味として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：大声で読み上げること
- イ：人の作品を批評すること
- ウ：言葉を伝えて記録すること
- エ：古い書物を燃やすこと

問9 「咆哮」の読み方をひらがなで答えなさい。

問10 若いころの李徴の説明として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：学問には関心がなく、武芸だけにすぐれていた
- イ：身分が低く、役人になることができなかった
- ウ：博学才穎で、若くして進士に合格した
- エ：袁慆の家に仕える下級の使用人だった

問11 李徴が官を辞めた理由としてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：病気になって働けなくなったから
- イ：低い役職に甘んじることを潔しとしなかったから
- ウ：袁慆から役人を辞めるように言われたから
- エ：家族から詩人になるように頼まれたから



問12 李徴が官を辞めたあと目指したものとして正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：詩人として名を成すこと
- イ：商人として成功すること
- ウ：武将として名を上げること
- エ：僧になって山にこもること

問13 李徴が詩人として成功できなかった理由に関係するものとして、もっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：詩をまったく作らなかったから
- イ：文字を読むことができなかったから
- ウ：詩そのものに全く興味がなかったから
- エ：師についたり、詩友と切磋琢磨したりしなかったから

問14 李徴が再び官職についた理由として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：詩人になる夢を完全に忘れたから
- イ：妻子を養うため、生活のために仕方なく戻ったから
- ウ：袁傜にすすめられたから
- エ：虎になることを避けるためだったから

問15 再び官職についた李徴の心情として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：ようやく自分に合った仕事を見つけて満足していた
- イ：詩への関心を完全に失い、役人の仕事に喜びを感じていた
- ウ：自尊心が傷つき、不満や焦りを深めていた
- エ：袁傜より出世したことを心から喜んでいた

問16 袁傜は李徴にとってどのような人物か。正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：李徴を役人から追放した上司
- イ：李徴の詩を批判した敵
- ウ：李徴の弟子
- エ：李徴の旧友



問17 虎になった李徴が、袁傜の前にすぐ姿を見せなかった理由としてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：虎になった自分の姿を見られることが恥ずかしかったから
- イ：袁傜をだまして都へ連れて行こうとしたから
- ウ：自分が李徴であることを完全に忘れていたから
- エ：袁傜を怖がらせて楽しみたかったから

問18 袁傜の役割としてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：李徴を虎に変えた人物
- イ：李徴の詩を盗んだ人物
- ウ：李徴の告白を聞き、詩や願いを受け取る人物
- エ：李徴を処罰するために追ってきた人物

問19 李徴が袁傜に自分の詩を伝録してほしいと頼んだ理由として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：自分の詩を後世に残したかったから
- イ：袁傜の詩を直してあげたかったから
- ウ：妻子に詩を読ませたくなかったから
- エ：虎としての生活を書き残したかったから

問20 李徴が袁傜に妻子のことを頼んだ場面について、正しい説明を次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：李徴は妻子をまったく気にかけていなかった
- イ：李徴は妻子のことを最初に頼み、詩のことは忘れていた
- ウ：李徴は妻子を袁傜に合わせるために呼び寄せた
- エ：李徴は妻子より先に詩を頼んだことに気づき、自分を責めた



問21 「臆病な自尊心」の説明としてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：自分には価値がないと考え、何も望まない心
- イ：自分は優れていると思いたいが、実力不足が明らかになることを恐れる心
- ウ：他人を助けるために、自分の誇りを捨てる心
- エ：人に認められなくても、努力を続ける心

問22 「尊大な羞恥心」の説明としてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：失敗を恐れず、人前で堂々と努力する心
- イ：自分を低く見せて、他人に助けを求める心
- ウ：他人の成功を心から喜ぶ心
- エ：本当は傷つくのが怖いのに、偉そうにして人を遠ざける心

問23 李徴が師についたり、詩友と切磋琢磨したりしなかった理由としてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：詩人になる気持ちがまったくなかったから
- イ：自分の才能のなさが明らかになることを恐れたから
- ウ：袁慆に詩作を禁止されていたから
- エ：家族が詩を嫌っていたから

問24 李徴にとって「虎」とは何を象徴していると考えられるか。もっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：李徴の中にあつた高慢さや孤独、怒りなどの猛獣のような性情
- イ：袁慆への友情だけを表すもの
- ウ：詩人として完全に成功した姿
- エ：妻子を守るための優しさ



問25 李徴が自分のことを「人間でなくなる」と感じている理由としてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

ア：詩をすべて忘れてしまったから

イ：袁傜と会話する力を失ったから

ウ：人間の心がしだいに薄れ、虎としての本能が強くなっているから

エ：妻子の名前を完全に忘れてしまったから

問26 李徴が妻子よりも先に詩のことを頼んでしまったことから分かるものとして、もっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

ア：李徴が詩への執着を完全に捨てたこと

イ：李徴が妻子を憎んでいたこと

ウ：李徴が袁傜を信用していなかったこと

エ：李徴の詩への執着と自己中心性

【本文】

隴西の李徴は博学才穎、天宝の末年、若くして名を虎榜に連ね、ついで江南尉に補せられたが、性、狷介、自ら恃むところすこぶる厚く、賤吏に甘んずるを潔しとしなかった。

問27 李徴が若いころからすぐれた人物であったことを表す四字熟語を、本文中から抜き出さない。

問28 李徴の性格を表す語を、本文中から二字で抜き出さない。

問29 「賤吏に甘んずるを潔しとしなかった」とは、李徴のどのような気持ちを表しているか。簡単に説明しなさい。



【本文】

いくばくもなく官を退いた後は、故山、號略に帰臥し、人と交を絶って、ひたすら詩作に耽った。下吏となって長く膝を俗悪な大官の前に屈するよりは、詩家としての名を死後百年に遺そうとしたのである。

問30 李徴が官を退いたあと、熱中したことを本文中から抜き出さない。

問31 李徴が詩人として名を残したいと考えていたことが分かる一文を、本文中から抜き出さない。

問32 「膝を俗悪な大官の前に屈する」とは、李徴にとってどのようなことを意味しているか。説明しなさい。

【本文】

己は詩によって名を成そうと思いながら、進んで師に就いたり、求めて詩友と交って切磋琢磨に努めたりすることをしなかった。かといって、また、己は俗物の間に伍することも潔しとしなかった。共に、我が臆病な自尊心と、尊大な羞恥心との所為である。

問33 李徴が詩人として名を成そうと思いながら、実際にはしなかった努力を二つ、本文中の言葉を使って答えなさい。

問34 李徴が師や詩友と交わらなかった原因を、本文中から二つ抜き出さない。

問35 「臆病な自尊心」とは、李徴のどのような心を表しているか。説明しなさい。

問36 「尊大な羞恥心」とは、李徴のどのような心を表しているか。説明しなさい。



【本文】

己の珠に非ざることを惧れるが故に、敢えて刻苦して磨こうともせず、また、己の珠なるべきを半ば信ずるが故に、碌々として瓦に伍することもできなかった。

問37 「己の珠に非ざることを惧れる」とは、どのようなことを恐れているのか。説明しなさい。

問38 「敢えて刻苦して磨こうともせず」とあるが、李徴はなぜ自分を磨こうとしなかったのか。説明しなさい。

問39 「瓦に伍することもできなかった」とは、李徴のどのような思いを表しているか。説明しなさい。

【本文】

ああ、何ということだ。己は今もって、まず、己の詩集のことを気にかけている。家族のことではない。こんな獣に身を墮とすのも、当然ではないか。

問40 李徴が「何ということだ」と自分を責めた理由を説明しなさい。

問41 この場面から分かる李徴の欠点を説明しなさい。

【本文】

虎は、既に白く光を失った月を仰いで、二声三声咆哮したかと思うと、また、元の叢に躍り入って、再びその姿を見なかった。

問42 最後に虎が月を仰いで咆哮する場面には、どのような意味があると考えられるか。説明しなさい。



問43 「再びその姿を見なかった」という終わり方の効果を説明しなさい。

問44 李徴が最後に袁慆へ自分の虎の姿を見せた理由として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：袁慆に自分の強さを自慢するため
- イ：袁慆が再びここを通過して自分に会おうと思わないようにするため
- ウ：袁慆を驚かせて追い払うためだけ
- エ：自分が虎ではなく人間だと証明するため

問45 最後に虎が月に向かって咆哮する場面の意味として、もっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：李徴が人間に戻れた喜びを表している
- イ：李徴の悲しみ、孤独、もう人間には戻れない苦しみを表している
- ウ：袁慆に勝利したことを誇っている
- エ：李徴が詩人として成功したことを表している

問46 「山月記」の主題としてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：努力しなくても、才能さえあれば必ず成功できるということ
- イ：友人を大切にすれば、どんな運命も変えられるということ
- ウ：人は虎になれば、本当の自由を手に入れられるということ
- エ：自尊心や羞恥心にとらわれ、自分の才能を本当に磨けなかった人間の悲劇

問47 「山月記」の読解で避けたい説明として、もっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：李徴は、もともと才能も苦悩もない、ただの悪人だったと説明すること
- イ：李徴の高い自尊心が、虎になる理由と関係していると説明すること
- ウ：袁慆が李徴の告白を聞く役割をもつと説明すること
- エ：最後の咆哮に、李徴の悲しみや孤独を見ること



山月記中島敦「山月記」テスト対策練習問題と過去問まとめ山月記 (解答)

問1 イ

【解説】「山月記」の作者は中島敦だよ。高校国語でよく扱われる近代文学作品の一つなんだ。

問2 ウ

【解説】「山月記」は、唐代の伝奇小説「人虎伝」など、中国の古典をもとにして作られた作品だよ。「中国の昔話」とぼんやり覚えるより、「人虎伝」という名前も確認しておく心安だね。

問3 はくがくさいえい

【解説】「博学才穎」は、学問が広く、才能がすぐれていることだよ。李徴が若いころから優秀だったことを示す語句なんだ。

問4 ア

【解説】「狷介」は、自分の考えにこだわり、人と合わないことだよ。李徴の性格を表す重要語句なんだ。

問5 エ

【解説】「恃む」は「頼みにする」という意味だよ。李徴は、自分の才能を強く信じていた人物なんだ。

問6 せんり

【解説】「賤吏」は、身分の低い役人という意味だよ。李徴が低い役職に甘んじることを嫌ったことと関係している語句なんだ。

問7 イ

【解説】「怏々」は、不満で楽しくないようすを表す語句だよ。李徴が再び役人になったあと、心から満足できなかったことを表しているんだ。



問8 ウ

【解説】「伝録」は、言葉を伝えて書き記すことだよ。虎になった李徴は、自分の詩を哀憐に書き取ってもらおうとするんだ。

問9 ほうこう

【解説】「咆哮」は、獣などが大声でほえることだよ。最後に虎となった李徴が月に向かってほえる場面で重要になる語句なんだ。

問10 ウ

【解説】李徴は、もともと才能に恵まれた優秀な人物だったよ。だからこそ、自分の才能に強い誇りを持っていたんだ。

問11 イ

【解説】李徴は、自分の才能を高く評価していたため、低い役職にいることを耐えがたいと感じたんだ。ここには、李徴の高い自尊心が表れているよ。

問12 ア

【解説】李徴は、詩人として名を残したいと考えていたよ。自分の詩によって後世に名を残すことが、李徴の強い願いだったんだ。

問13 エ

【解説】李徴は詩人として名を残したかったけれど、他人に学ぶことを避けたんだ。自分の才能を信じながらも、実力不足が明らかになることを恐れて、本当に自分を磨く努力から逃げてしまったと読めるよ。

問14 イ

【解説】詩人として名声を得られなかった李徴は、生活が苦しくなり、妻子のために再び官職につくよ。しかし、自尊心の高い李徴にとって、これは大きな屈辱でもあったんだ。

問15 ウ

【解説】李徴は、再び役人になっても心から満足できなかったよ。かつて自分が見下していた人々の下で働くことになり、自尊心が傷ついていったんだ。



問16 エ

【解説】袁傜は、李徴の旧友だよ。李徴と親しかった人物であり、虎になった李徴の告白を聞く重要な役割をもっているんだ。

問17 ア

【解説】李徴は、虎になった姿を旧友に見られることを恥じているよ。ここには、人間としての李徴の心がまだ残っていることと、強い羞恥心が表れているんだ。

問18 ウ

【解説】袁傜は、虎になった李徴の話を書く人物だよ。李徴の告白を読者に伝えるためにも、袁傜はとても重要な存在なんだ。

問19 ア

【解説】李徴は、虎になったあとも詩人としての名声にこだわっているよ。自分の詩が残らないまま消えてしまうことを恐れ、袁傜に伝録を頼むんだ。

問20 エ

【解説】李徴は、妻子への思いがないわけではないよ。けれど、先に詩のことを頼んでしまった。そのことに自分で気づき、自己中心的な自分を責めるんだ。

問21 イ

【解説】「臆病な自尊心」とは、自分は優れていると思いたい一方で、努力して失敗し、自分の実力不足が明らかになることを恐れる心だよ。李徴は、この心のために本気で自分を磨くことから逃げてしまったんだ。

問22 エ

【解説】「尊大な羞恥心」は、本当は傷つくのが怖いのに、その弱さを隠すために偉そうにしてしまう心だよ。李徴は、人に学ぶことを恥と感じ、人と交わることを避けてしまったんだ。

問23 イ

【解説】李徴は、自分の才能を信じたい一方で、努力しても成功できなかったときに、自分の才能の限界が明らかになることを恐れていたんだ。だから、師や詩友に学ぶことを避けたと読めるよ。



問24 ア

【解説】李徴が虎になったことは、ただの体の変化ではなく、李徴の内面にあった高慢さ、孤独、怒り、弱さが外側の姿になったものとして読めるよ。

問25 ウ

【解説】李徴は、虎になってもまだ人間の心を残しているよ。けれど、その人間の心がだんだん薄れ、虎としての本能が強まっていくことを恐れているんだ。

問26 エ

【解説】李徴は妻子を思っていないわけではないよ。でも、先に頼んだのは自分の詩だった。ここから、李徴が最後まで詩人としての名声に強く執着していたこと、そしてその自己中心性を自分でも恥じていることが分かるんだ。

問27 博学才穎

【解説】「博学才穎」は、学問が広く、才能がすぐれていることだよ。李徴がもともと優秀な人物だったことを示しているんだ。

問28 狷介

【解説】「狷介」は、自分の考えにこだわり、人と合わない性格を表す言葉だよ。李徴の高い自尊心や、人と交わりにくい性格を読み取る手がかりになるんだ。

問29 身分の低い役人として満足することを、李徴が自分の誇りに合わないと感じていたということ。

【解説】李徴は、自分の才能を強く信じていたため、低い役職にいることを受け入れられなかったんだ。ここには、李徴の高い自尊心が表れているよ。

問30 詩作

【解説】李徴は、官を辞めたあと、詩人として名を残そうとして詩作に打ち込んだよ。ただし、努力のしかたには問題があったんだ。

問31 詩家としての名を死後百年に遺そうとしたのである。

【解説】李徴は、役人として生きるよりも、詩人として後世に名を残すことを望んでいたよ。この思いが、李徴の人生を大きく動かしていったんだ。



- 問32 **自分が見下しているような役人に従い、低い立場で働くこと。**
【解説】李徴にとって、俗悪な大官の下で働くことは、自尊心を傷つけられる屈辱的なことだったんだ。
- 問33 **師に就くこと。詩友と交って切磋琢磨に努めること。**
【解説】李徴は、詩人として成功したいと思っていたのに、師に学んだり、詩友と互いに磨き合ったりしなかったよ。ここに、李徴の矛盾した弱さが表れているんだ。
- 問34 **臆病な自尊心。尊大な羞恥心。**
【解説】この二つは「山月記」の最重要語句だよ。李徴は、自分の才能を信じたい一方で、実力不足が明らかになることを恐れていたんだ。
- 問35 **自分は優れていると思いたいが、努力して実力不足が明らかになることを恐れる心。**
【解説】李徴は、自分には才能があると思いたかった。しかし、本気で努力して失敗すれば、自分の才能の限界が分かってしまう。それを恐れた心が「臆病な自尊心」なんだ。
- 問36 **本当は傷つくことを恐れているのに、偉そうにふるまって人を遠ざける心。**
【解説】李徴は、人に学ぶことや、他人と交わることを避けたよ。それは、弱さを見せることを恥じ、傷つくことを恐れていたからなんだ。
- 問37 **自分には本当はすぐれた才能がないと分かってしまうことを恐れている。**
【解説】「珠」は、すぐれた才能のたとえとして読めるよ。李徴は、自分が本物の才能を持つ人間ではないと分かることを恐れていたんだ。
- 問38 **努力しても成功できなかったとき、自分の才能のなさが明らかになることを恐れたから。**
【解説】李徴は努力が嫌いだっただけではないよ。努力した結果、自分の限界が見えてしまうことが怖かったんだ。ここが李徴の弱さの中心なんだね。
- 問39 **自分はすぐれた才能を持つはずだと思っているため、平凡な人々と同じように生きることを受け入れられなかったという思い。**
【解説】李徴は、自分を「珠」であるかもしれないと考えていた。そのため、普通の人々と並んで生きることを屈辱のように感じていたんだ。



問40 妻子のことより先に、自分の詩集のことを気にかけてしまったから。

【解説】李徴は、妻子への思いがないわけではないよ。でも、最初に頼んだのは詩のことだった。そのことに気づき、自分の自己中心性を恥じているんだ。

問41 家族よりも、自分の詩や名声への執着を先に考えてしまう自己中心性。

【解説】李徴は、自分の詩を後世に残したいという思いを捨てきれないよ。この執着が、李徴の悲しさであり、欠点でもあるんだ。

問42 人間としての李徴の悲しみや孤独、もう人間には戻れない苦しみを表していると考えられる。

【解説】李徴は自分の苦しみを言葉で伝えたいはずなのに、最後には虎の咆哮としてしか表せないよ。そこに、李徴の深い孤独と悲しみが表れているんだ。

問43 李徴が人間の世界から離れ、獣の世界へ戻っていくことを印象づけ、読者に悲しみや余韻を残す効果がある。

【解説】李徴のその後は詳しく語られないよ。だからこそ、李徴がもう戻れないところへ行ってしまったような印象が強く残るんだ。

問44 イ

【解説】李徴は、袁儻が再び自分に会いに来ないように、自分の虎の姿を見せるよ。もし完全に虎に戻ってしまえば、旧友である袁儻を襲ってしまうかもしれないと恐れているんだ。

問45 イ

【解説】最後の咆哮は、ただの虎の鳴き声ではなく、人間としての李徴の悲しみや孤独を感じさせる場面だよ。言葉で伝えたい心があっても、外には獣の声として出てしまうところに、李徴の苦しさが表れているんだ。

問46 エ

【解説】「山月記」は、李徴という人物を通して、自尊心や羞恥心にとらわれ、自分の弱さと向き合えなかった人間の悲劇を描いている作品だよ。李徴の姿は、才能や努力、自分との向き合い方について考えさせてくれるんだ。



問47 ア

【解説】李徴は単純な悪人ではないよ。才能があり、苦悩もあり、自分の弱さを理解している人物なんだ。だから「ただの悪人」とだけ説明してしまうと、作品の大事なテーマを読み落としてしまうよ。

